



DBKだより

第23号

2019年12月25日
ドン・ボスコ基金



教皇フランシスコ来日ミサ in 長崎 長崎県営野球場にて 写真/関谷義樹

主よ、わたしは財産の半分を貧しい人びとに施します。また、誰かから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。(ルカによる福音書19章8節)

トピック

南スーダン共和国 日本と南スーダン、サレジオ家族の絆に結ばれて/東ティモール ロスパロス児童養護施設 子どもたちの笑顔のために
ベトナム 聖マリア職業訓練センターの建設プロジェクト/スリランカ ダンガルピティア修練院 ビント神父のインタビュー
モンゴル 小島シスターの活動報告

恩人の皆様へ

「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人びとに施します。また、誰かから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」(ルカによる福音書19章8節)

この聖書のことは、イエスと出会ったザアカイという人の言葉です。ご存じのように、ザアカイはエリコという町で徴税人の頭で金持ちでした。税金を余分に取り立てて、私腹を肥やしていたのです。したがって、人びとからはたいそう嫌われていました。その嫌われ者の家に泊まったイエスも「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった」と非難されたほどです。

そうしたことを他所に、ザアカイの心は晴れやかでした。それは、イエスとの出会いがそうさせたのです。「財産の半分を貧しい人びとに施す」、「だまし取っていたら、四倍にして返す」ということは、普通にはあり得ないことですが、生じました。イエスとの確かな出会いが、

ザアカイの心を動かし、そうさせたのだと思います。

ところで、恩人の皆様がくださった寄付金は、多くの場合、宣教者を介して私たちの助けを必要としている子どもたち・若者たちをはじめ多くの人びとの所に届けられています。じつは、その宣教者もキリストに出会った人たちです。助けを必要とする人びとの所へおもむき、彼らが喜びと希望をもって歩むことができるように、キリストの生き方に^{あやか}肖りながら、彼らと苦楽をともにし、日々ともに生きることによって、それぞれの国・地域でその土地の人びとに^{つか}遣えています。

皆様へ感謝するとともに皆様のご多幸を願いながら、下記、宣教者からのご報告をさせていただきます。ありがとうございます。今後とも皆様のご理解と温かいご支援を、どうぞよろしくお願い致します。

2019年12月

DBK [ドン・ボスコ基金] 代表 濱口 秀昭
(サレジオ会日本管区長)

南スーダン共和国

日本と南スーダン、サレジオ家族の絆に結ばれて



支援者の方々に感謝の祈りをささげる南スーダンの神父と教会の人びと

イエスのカリタス修道女会宣教女 シスター下崎優子

いつも、私たち南スーダン共和国の人びとのため温かいご支援をしてくださり、心より感謝いたします。皆様がいつも心に掛けてくださっていることに、私たちは励まされています。

食料を配る前、主任神父様は必ず日本のサレジオ家族の皆さんが支援してくださることを説明し、皆で日本の皆さんのために感謝の祈りを唱えています。以前はもらうことが当たり前で、「少ない」と不満さえこぼしていた村の人たちが、今は「ありがとう」（アラビア語で「シュ克蘭」）と笑顔で言う人が増えてきました。

南スーダンの人は、誇り高く、純粋な心の持ち主です。私は村の人たちに、皆さんからの支援が、有り余る中から出されたものではなく、欲しい物を買わないでお金を貯めたり、子どもたちがお菓子をがまんしたりして貯めたお金を送ってくれているのだと話しています。恩着せがましいと思われるかもしれませんが、日本のサレジオ家族の皆様が支援してくださる思いをきちんと伝えることで、感謝を知らなかった人たちが感謝するようになり、道ですれ違つと感謝の気持ちを言う人も出てきました。これは本当に大きな変化です。

これもひとえに、皆様からのご支援で定期的に食糧支援をすることができている賜物です。たいていのNGOは、プロジェクトでない限り、そのときだけ届けられたものを配り、後はいつ来るのかわからない状況です。



この日は主食となるトウモロコシ粉を200組の家族に配布します。10kg入りですが1週間で食べ終わってしまいます。



食料配布は、事前に登録された方々に対して、グループ分けをして行います。そうしないと大勢の人が押し寄せて大変な事態になります。この日に受け取る方々が続々と集まってきます。



教会のヴィンセンシオグループ（奉仕活動グループ）が、お年寄りや体の不自由な方を優先して配るため、名簿をチェックしています。

いま、私の部屋から、オラトリオ(教会が運営する学校)に参加している子どもたちの声が響いています。日本の皆さんからの支援で購入したポータブルステレオで音楽を流しながら、運動場でサッカー、バスケットボールなどを楽しんでいます。遊んだ後はロザリオの祈りを唱えて、家に帰ります。

日本と南スーダンは遠い国同士ですが、サレジオ家族の絆に結ばれて助けられていることに感謝しています。ありがとうございます。

東ティモール ロスパロス児童養護施設 子どもたちの笑顔のために



食事の時間がやってきた！パンと牛乳をいただく子どもたち

サレジアニ・コオペラトリー 辻村 直(東ティモール在住)

東ティモールは、南半球にある人口およそ110万人の小さな島国です。21世紀最初の独立国(2002年独立)として、ニュースで報じられたことを覚えていらっしゃる方も多いかもしれません。

1946年、2度目の遠征でサレジオ会宣教師が上陸して以来、ドン・ボスコの精神を生きる会員らは、学校、職業訓練所、児童養護施設などの運営を通じて、それぞれの地域の子どもと青年に寄り添い続けています。

1959年に設立されたロスパロス児童養護施設は、去年、皆様の温かいご支援により、雨漏りで傷んだ寝室の屋根と天井を修繕することができました。

ここでは、7名の会員たちと、準修練院で勉強する志願者の若者たちが、およそ100名の子どもと寝食を共にし、勉学および生活指導にあたっています。

共同生活を通じて、勉学以外にもたくさんのことを学ぶ子どもたちですが、中でも、みんなで食卓を囲んでいただくご飯と志願者のお兄さんたちからサッカーやギターなどの楽器演奏を教えてもらう余暇活動の時間が大好きです。午後になると広場にみんな集まり、球技をしたり、ギターを^{かな}奏で、歌の練習をしたりします。余暇の時間は、近所の子どもたちも大勢加わるため、とても賑やかで、ミニ運動会をしているようです。

ロスパロス児童養護施設は、例年、国からお米の支給などの援助を受け、運営していますが、2017年の国政選挙の後、政治的不和が発生し、新政府の計



竹で編んだボールでサッカーの練習をする子どもたち



子どもたちが学校に行っている間に畑の手入れをする志願者たち

画と予算案が承認されず、この影響は、同施設にも及びました。お米の支給が途絶え、施設運営費を工面するうえで、仕方なく、余暇活動に当てる費用を削減することになったのです。

今年、皆様の継続的なご支援を受け、全体の7割をお米などの食糧調達に、残りをサッカーボール、バスケットボール、バレーボールの購入費とギターなどの楽器修繕費に充てることに致しました(現地で販売されているボールは、品質が粗悪で、すぐに破けてしまうのです)。新しいボールを手にし、歓喜する子どもたちの姿が目につかびます。

一緒に学び、働き、思い切り遊んで、楽しく食事をする。こちらにいと、シンプルですが、喜びのうちに生きることの大切さを教えられます。

継続的な支援を通じ、このような日常を支えてくださる皆様に、子どもたち、そして会員に代わり、心より御礼申し上げます。

ベトナム 聖マリア職業訓練センター の建設プロジェクト



グエン・ヴァン・デ司教(右)と富山ラッパ神父

ベトナム・タイビン教区 グエン・ヴァン・デ司教(サレジオ会)

ベトナムは社会主義国で、宗教活動に対する規制が厳しく、宗教団体が活動することを国は喜びません。しかし、サレジオ会は職業訓練校を静かに始め、人びとからの支援もあり、今では5つの職業訓練校を運営しています。また、サレジオ会はハンセン氏病患者や身体障害者のために働いており、国は支援はしませんが黙認しています。ベトナムでは、障害者の多くが親から見捨てられてしまっています。この方々が生きてゆくために、仕事をする場所を見つけ、社会に奉仕できるようになればと願っています。

現在、障害者のための聖マリア職業訓練センターを建設するプロジェクトを進めており、支援して下さる恩人を探しています。寄宿制訓練センターは半分ほど建設が進んでおり、信徒たちがほとんど手作りで建てています。専門家はごく数人で、機械はほとんどなく、手作業です。でも、自分たちの手で作っているという喜びがあります。

このような活動が続けられるのは、皆さん一人ひとりが支えてくださっているからです。皆さんのちょっとした犠牲で助けを必要とする方々を生かすことができるのです。

今、教会が発展しないのは、教会の中だけで、美しい儀式をしているからではないでしょうか。教会が出ていく事によって、人と出会う事によって、社会に奉仕することによって、教会の発展につながっていきます。

DBK[ドン・ボスコ基金] はそのような働きを担ってられます。皆さんが私たちと協働して下さることで、新しい良いものが生まれると思います。

スリランカ ダンガルピティア修練院 ピント神父のインタビュー



調布サレジオ神学院の近くにある深大寺を散策し、深大寺そばをいただきながらインタビュー。アンソニー・ピント神父と通訳をして下さった調布サレジオ神学院院長の田村宣行神父

サレジオ会スリランカ準管区 アンソニー・ピント神父

DBK[ドン・ボスコ基金] から支援いただいたダンガルピティアの修練院(司祭をめざす修練生の寮)は、仏教徒だけの農村に隣接しています。スリランカは仏教国で、ほとんどの人が仏教徒です(キリスト教徒は1割に満たない)。私にも仏教の僧侶である友人がいます。スリランカの政府は、仏教徒が他宗教に改宗することを好みません。

私は、母がクリスチャンで教会に通っていた影響もあって、中学生の時に神学校に入りました。幼い頃は電車の運転士になりたいと思っていたのですが、父は私がカトリックの司祭になることに最後まで反対していました。

ダンガルピティアの修練院では、スリランカだけではなく、インドやバングラディッシュからも司祭をめざす学生を受け入れています。現在5人のサレジオ会員と17人の修練生が暮らしています。仏教徒ばかりの地元溶け込む努力として、修練生たちは地域の子どもたちのためにユースセンターの活動を行い、無料で国語・算数・英語を教えています。これからも皆様からのご支援をよろしくお願い致します。

モンゴル 小島シスターの 活動報告



モンゴルの子どもたちと小島シスター

サレジアン・シスターズ宣教女 シスター小島華子

いつもモンゴルのために皆様の思いとご支援、お祈りをいただき、本当にありがとうございます。「DBKだより」でもモンゴルのことをご紹介いただき、たくさんの方々から物的、精神的にご支援いただいていることを共同体の姉妹と共に心から感謝しております。

モンゴルの概要

モンゴルの北にはロシア、南には中国があります。首都はウランバートルで、日本との時差は1時間。21の県があり、ある地域では冬にマイナス50度まで下がるところもあります。

モンゴル帝国の初代皇帝チンギス・ハーンのことを、モンゴル人は皆誇りに思っています。

公用語はモンゴル語(キリル文字)、通貨はトゥグルグ(紙幣のみ)。面積は日本の4.1倍の広さで、60%が草原地帯。人口は281万人で、その大半が首都ウランバートルに住んでいるため、町全体が混雑しており、交通渋滞もひどい状況です。

産業は、カシミヤが有名ですが、ヤギは草を根こそぎ食べてしまうため、砂漠化が進んでしまいます。

鉱業は、多くの鉱物資源がありますが、採掘する技術がなく、他国に採掘の権利を譲渡し利益を得ていますが、モンゴル経済は好転していません。

環境は、石炭による火力発電で、冬はとくに石炭の煙による大気汚染がひどく、PM2.5はWHO安全基準の80倍、北京の5倍もあります。大気汚染による

死者は年間4000人以上とされています。

人びとの暮らし

モンゴルは1992年に民主化されました。貧富の格差が激しく、多くの人びとの暮らしは貧しい状況です。

ゴミ捨て場から鉄くずやペットボトルを集めて生活している人びとも多くいます。ゲルには水道が引かれていないため、井戸から水を汲み、生活用水として利用します。いつもきちんとした服装でいるため一見貧しくないように見えますが、ゲルを訪れるとその家の本当の生活状況がわかります。

近代的な生活、生活の安定を求めて田舎から首都に出てくる人びとが多く、全財産を売って現金にして都会に出てきますが、仕事がないためすぐにお金がなくなってしまいます。そして、就職するためには免許が必要で、学校に行けず免許を持っていない人はいわゆる3K(きつい、汚い、危険)の仕事しかありません。職がないにもかかわらず3Kを嫌がる若者が毎日することがなく人生の一番輝かしい時代を無駄に過ごしている姿を見ると本当に心が痛みます。

食生活に関しては、朝食はあまりとりません。スーテューというモンゴルの伝統的な飲み物を飲むだけあるいは乳菓子を食べるのみ。夜は家庭によりですが肉が入った汁物、あるいは伝統的な料理であるボーツあるいはホーショールを。とても質素で、3食きちんと食べるわけではなく、食費はそれほどかけません。いつも空腹を抱えています。

モンゴルのカトリック共同体

モンゴルの宗教は、チベット仏教が大半で、シャーマニズム信仰も根深くあります。このほか、イスラム教、プロテスタント、カトリック、エホバの証人などもあります。カトリック教会は全国に10あり、信徒は約1300人とされています。

モンゴル教会初の司教でいらしたヴェンセスラオ・パディラ司教様(フィリピン人)が、2018年に急逝しました。生前「宣教師は私の子どもたち、モンゴル人は私の孫たち」と言っていたように、皆のお父さんという存在でした。誰もが「私が司教様から一番大切にしてもらった」と言うほど出会うすべての人を分け隔てなく愛



モンゴルの伝統的な住居ゲル
photo: Brücke-Osteuropa [Public domain]



されていた方です。ご病気で具合が悪い日でも誰かが訪問に来れば快く迎え入れる、本当に温かい寛大な方でした。私たちのお父さんを失った大きな悲しみはまだ心の中に残っています。

モンゴルには11の修道会とフランスと韓国から教区司祭が滞在しています。合計でも80人に満たない数ですので、私たちカトリック宣教者は修道会、国籍、言葉が違っていても1つの家族であるという感覚を全員が持っています。それは亡き司教様が最も望んでおられたことでもあります。

サレジオ家族のモンゴルでの宣教は、サレジオ会ではベトナム管区(9人、来年2人到着予定) サレジアン・シスターズでは韓国管区(4人) が滞在しています。メンバーはベトナムや韓国だけでなく、イタリア、香港、インド、チェコ、ポーランド、日本など、様々な国籍のメンバーがおり、国際色豊かです。モンゴル人のサレジアニ・コオペラトリー(信徒の協力者会) も10人ほどいます。2年前から同窓生のメンバーも加わりました。

サレジオ家族としての活動はクリスマス、ドン・ボスコの祭日、マードレ・マザレロの祭日を順番に企画し、1つの家族としての喜びを味わい、温かいお祝いのひと時をもつようにしています。

宣教活動の報告

私は、サレジオ会が担当しているショボーという土地にある教会に出向いて毎週土曜・日曜日に音楽の授業、カテキズム(教会の教え) の授業を行っています。

子どもたちの将来のため、そしてミサでオルガン奉仕ができるように、楽譜の読み方や書き方を教えています。その他にもたくさんの恩人のおかげでウクレレ、ギター、打楽器が備えてあり、お祝いの時、また夏にボランティアに来てくださった方への感謝のコンサートで楽器演奏ができるように教えています。

この教会はゲルを聖堂として使っていますが、ゲルの形をしたコンクリート作りの聖堂建設が始まりました。

私の共同体からショボーの教会までは32km、往復で64kmあり、毎週土・日に行っていますので、かなりのガソリン代がかかります。しかし、これも神様が私にくださった宣教の場ですので、皆様の援助をいただいて滞りなく心を込めて使命を果たすようにしています。

マリア・アウシリウム教育センター

私が住んでいるウランバートルの修道院は4階建てで、1階では「マリア・アウシリウム教育センター」を営んでいます。このセンターには、子どもたちが学校の行きや帰りに立ち寄って(学校は午前と午後の2部制) 宿題をしたり、本を読んで過ごしたりしています。月謝を払って音楽や英語、小さい子どもたちのために算数とモンゴル語の授業を受けることもできます。

また、私は週に1回サレジオ会が運営しているドン・ボスコ専門学校で音楽クラブの授業をしています。

モンゴルのカトリック教会の青少年司牧委員も務めていて、四旬節や待降節に黙想会を開催したり、2年に1度、小教区に所属する青少年を集めてサマーキャンプを開催したりしています。めったに会うことができない青年たちが出会い、信仰を分かち合う場、私たちが各小教区での青少年の状況を知るための貴重な機会となっています。

さまざまな課題

モンゴルでは外国からの事業者に対して、さまざまな規制があり、何をするにも多額の費用と税金を求められます。

1. 最近新しく公布されたモンゴルの新しい法律により、教育施設は市の用地に建てなければなりませんが、現在私たちが建てようとしている幼稚園の土地は区の用地です。これを市の用地に変更するために数百万円の費用がかかります。

2. 以前、私たちの修道会はダルハン市にも支部を持っていましたが火災で焼失してしまいました。早くダルハン市に戻り宣教活動を再開するように幾度となく要請されましたが、ビザの問題でなかなか新しいメンバーをモンゴルに迎えることができず、今のところいつ戻るかめどが立っていません。

3. モンゴルのカトリック教会宣教師はモンゴル政府の前で宣教師ではなく、CCM(Catholic Church Mission) というNGOのメンバーとしてビザを取得しています。メンバー1人につきモンゴル人を4人雇わなければならない、宗教活動も大きく制限されています。また、ビザ取得のためには、教師など何らかの免許が必要で、



モンゴルにあるサレジアン・シスターズの小学校

資格がなければ追加費用を支払います。外国人がモンゴルで生活するためには、大変な費用がかかります。

さらに、主任司祭だけは宗教ビザを取ります。3か月ごとにビザの更新をしなければならず、その度に何百万も支払わなければなりません。そして1つの教会に20人のモンゴル人を雇わなければなりません。1つの教会で20人のためにどんな仕事があるでしょう？20人分ものお給料を貧しい小教区でどのように払うことができるのでしょうか？

事業認可の更新は1年ごとで賄賂を渡せば簡単に審査は通りますが、これは正しいことではないので、どれだけ時間と費用がかかっても、正しい道を踏み外すことなく粘り強くやっています。

協働者の課題

モンゴル人と共に働くうえで、さまざまな課題があります。仕事に対する責任感があまりなく、遅刻したり、期限を守れなかったり、学校の教師なのに授業時間に外出してしまうような人もいます。公立の学校では生徒が賞をとると担任の教師の給料が上がるので、教師は「いい点数を取るように」ととても厳しく指導はしますが、「心の教育」には関心が薄いというのが実情です。あるいは自分がもらっている給料よりも高い給料を支給する学校を見つけると、年度途中でも学校をやめてその学校に行く先生もいます。教員・協働者の養成は大きな課題です。

司祭・シスターへの召命

4年前に初めてのモンゴル人司祭が誕生し、来年には2番目の司祭が誕生する予定です。自分も司祭になりたいと望む若者たちが増えてきました。現在2人の若者が司祭を目指しています。彼らは小教区に主任司祭と共に住みながら初期養成をはじめ現在、韓国語の学校に通っています。しっかり語学を習得してから、韓国で正式な養成が始められる予定です。

シスターになりたいという若い女性も増え、現在彼

女らの養成をどのように行っていくか検討中です。

私たち宣教師だけではモンゴルにおける神の国の実現にたくさんの障害と難しさがあります。やはり、モンゴル人が愛する自分の国のために生涯をかけていくことが必要であると、この27年の過ぎた年月を振り返り実感させられます。神様が召命の種を植えられた若者が全身全霊をかけてそれに応えていくことができるように、どうぞ毎日お祈りください。

皆様の励ましに支えられて

私は9歳の時から、貧しい人たちのために宣教女になるのが夢でした。サレジアン・シスターズがモンゴルで宣教を始めて13年経ちます。現在、幼稚園、小学校、センターを独自の事業として行っていますが、明日を予測できない状況のなかでの宣教活動は今でもいろいろな意味で模索中です。モンゴル国の法律では教会の中でしか神様の名を口にすることはならず、学校ではお祈りを唱えることも、修道服を着ることもできません。6年たった今でも地域の人びとにまだ受け入れられていません。私が思い描いていた宣教活動とは正反対です！

27年前に民主化されましたが、まだ共産主義のなごりがあります。国が不安定なために人びとの生活も不安定で、これが教育にも大いに影響しています。紙面に表せないたくさんの挑戦や困難があります。しかし、宣教活動は神様がなさること。私たちは道具にすぎません。ですから神様に大きな信頼をもち、毎日自分たちができることを誠実に精一杯行うことが大切なのではないかと実感しています。モンゴル宣教の初期に生きる私たちは、未来のカトリック教会、私たちの修道会の揺るぎないしっかりとした土台を作るという重大な責任があります。

早いものでモンゴルに派遣されて10年の月日が過ぎました。皆様の応援なくしては今日、この日まで宣教女としての使命を果たすことができませんでした。いつも私を支え、私の背中を押してくださる方々がいらっしゃるが、私にとってどれほどありがたいことか。

私たちを物心両面で支えてくださっている皆様もモンゴルの宣教師です！生涯をモンゴルのために捧げたいと望んでいる私が最後の吐息まで神様の望まれる宣教女として日々成長できるように、どうぞこれからもお祈りください。そして、これからも私たちの宣教活動にご参加くださいませ！

たくさんの感謝と皆様への信頼を添えて。

DBK[ドン・ボスコ基金]に ご支援くださった皆様

2019年4月1日～2019年9月31日の間に、DBK[ドン・ボスコ基金]に募金して下さった方々です。

匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】〔敬称略〕

相見貴子、安部博、新井顯保、有田美智子、飯沼武、池尾久美、石崎真理子、伊積幸江、伊積佳江、市川敏子、伊藤紀子、伊藤裕子、伊波里奈、猪俣武雄、入江詮吉、入江千鶴子、岩下信子、岩田卓三、植田良子、梅田博子、榎戸敏三、榎本世志子、遠藤昌子、大浦るみ子、大水健二、小山田匡宏、梶田みどり、加藤慎次郎、河合法子、川本和子、河本百合子、岸井啓吾、藏本麻里、毛原日出世、小頭幸枝、児玉欣也、後藤雅貴、小林徹也、佐久間瑠美子、笹岡一之、佐藤朝子、佐藤香代子、里脇美幸、沢口幹雄、澤口美由紀、澤美由紀、椎原伊三男・園美、島本メリエ、下里亘、正司尚子、杉山信彦、妹尾ゆき、田内裕子、高木信子、高島晶子、高島正人、高野仁、高橋廣見、竹内昭男、田村陽子、戸村信子、友村忠司、成田暁彦、西ヶ谷裕子、野口幸子、野濱多美子、長谷川裕子、浜崎廣光、平井隆史、平川友也、福岡美英子、福岡慶子、福村真由美、藤田満智子、藤原伸子、藤原礼子、古木裕行、松田宏紀、三上茂、水谷義晴・とし子、三田てい子、三永典子、村田玲子、藻垣良恵、八木下泰博、山合健三、山岡卓二、山崎イサオ、山下明彦、山田美恵、山本朋弥、山本秀子、吉田邦利、吉田三代江、和田恵美子、和田位、和田静

【団体】〔敬称略〕

株式会社 関西建物、イエスのカリタス修道女会日本管区本部、ウニオーネ日本管区本部、カトリック小金井教会、カトリック鷺沼教会古着プロジェクト、カトリック名張教会三重南部ブロック教会学校、カリタス女子中学・高等学校、サレジオ・シスターズ大村修道院、サレジオ・シスターズ扶助者聖マリア修道院、サレジオ・シスターズ別府修道院、サレジオ・シスターズ山中修道院、サレジオ学院(キルトBee)、静岡サレジオ小学校父母の会、城星学園中学高等学校、星美学園中学校高等学校、ドン・ボスコ社(店頭募金)、マンマ・マルゲリタ修道院

【匿名の方】 55件

DBK[ドン・ボスコ基金]へのご支援とお祈りを、
今後ともよろしく願いいたします。

ドン・ボスコ基金 2018年度決算報告書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位:円)

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
ボリビア	1,811,202		ボリビア	2,000,000	*1
西日本豪雨災害	507,530		西日本豪雨災害	1,000,000	*2
ソロモン諸島	335,735		ソロモン諸島	500,000	*1
南スーダン	293,936		南スーダン(イエスのカリタス)	1,000,000	*3
ナミビア	200,000		ナミビア	200,000	
シリア	130,766		シリア(サレジオ・シスターズ)	500,000	*4
サレジオ会総長	123,682	*	サレジオ会総長意向	500,000	*1
モンゴル	105,670		モンゴル	1,000,000	*5
東ティモール	78,180		東ティモール	300,000	*1
ベトナム	2,953		ベトナム	200,000	*1
ハッピーハウス	106,870		ハッピーハウス	200,000	
Kiitos	24,000		Kiitos	200,000	
多文化共生センター東京	4,870		多文化共生センター東京	300,000	
日本国内	175,620		星美ホーム	300,000	
マカオ	29,870	**	ブラジル サンマテウス(イエスのカリタス)	500,000	*3
アルゼンチン	27,780	**	フィリピン 孤児院	300,000	*1
任意	8,896,379		スリランカ	200,000	
寄付金 小計	12,855,043		寄付金 小計	9,200,000	
			寄付金送金手数料	43,160	
利息	12		DBKだより発行分	174,100	
過年度修正額	19,769	***	事務関係経費	37,944	
			諸経費 小計	255,204	
前年度繰越金	2,169,139		次年度繰越金	5,588,759	
収入の部 合計	15,043,963		支出の部 合計	15,043,963	

収入の部は2018年4月1日から2019年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっています。

* 「サレジオ会総長」宛の寄付はサレジオ会総長の意向のために集められたものであり、サレジオ会総長へ送金いたしました。

** 寄付希望先の「マカオ」および「アルゼンチン」については次年度以降送金を検討いたします。

*** 過年度修正額は過年度の会計処理錯誤によるものです。

※1 サレジオ会日本管区本部経由で国際送金を行いました。

※2 カリタスジャパンへ西日本豪雨災害のためという目的で送金いたしました。

※3 イエスのカリタス修道女会日本管区本部経由で送金いたしました。

※4 サレジオ・シスターズ日本管区本部経由で送金いたしました。

※5 小島華子シスター帰国時に直接お渡ししました。

印の無い支出については直接DBK口座から送金等行いました。

DBKだより 第23号

2019年12月25日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

https://salesio.jp/about/dbk



DBK[ドン・ボスコ基金]は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号 00190-5-292253

加入者名 ドン・ボスコ基金

寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(☑チェックマーク)をご記入ください。



サレジオ会日本管区本部の聖堂で
小島華子シスターと一緒に